

2013年3月1日

東京都教育委員会委員長 木村 孟 様
(他に東京都知事あて)

国際婦人年連絡会

世話人 橋本 葉子
實生 律子
山口みつ子

東京都教育委員会作成『江戸から東京へ』の配付中止を 求める要望書

国際婦人年連絡会は、全国組織の37女性団体が、「平等・開発・平和」の実現に向けて結集し、女性の地位向上、男女平等の実現を目指して活動しているNGO団体です。

東京都は2012年度から都立高校において、高等学校学習指導要領にない「日本史」必修化の方針を立て、東京都独自の日本史科目『江戸から東京へ』で使用する副読本12万冊を作成し、都立高校入学の全生徒に無償で配布してきました。さらにこの4月から入学する都立高校生43,000人にも無償配布する予定で、この副読本に使った都税はすでに2,000万円以上に及んでいることは看過できません。

また、今年の1月24日には、2013年度新入生用内容について、領土問題や関東大震災時の朝鮮人虐殺の記事を改ざんするという執筆権侵害も起こっています。

高等学校学習指導要領には近現代を重視した「日本史A」が設定され、その目標に「我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して、考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民の資質を養う」とあります。この観点に照らし合わせると、東京都教育委員会作成の副読本「江戸から東京へ」の目標は「自国の伝統と文化について理解すること」「我が国と郷土に対する愛着と誇りを持つ」と伝統と愛国心の強調が読み取られます。

目標自体が高等学校学習指導要領と大きく隔たり、偏った意図をもって学校教育に取り込み、高校生にその歴史観等を押しつけるようなことをしてはなりません。

以上の主旨から、以下のことを重ねて要望します。

- 高校生に教科書として使用させる副読本も、高校学習指導要領に準拠して作成すること
- 自国の伝統文化を大切にすることは重要ですが、愛国心に偏った歴史観を内蔵させないこと
- 新年度は東京都教育委員会作成の副読本『江戸から東京へ』の配付を中止すること。